ギャンブルオンブズマン

（ギャンブル依存症を生む公認ギャンブルをなくす会）

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（[inoue@peacelaw.jp](mailto:inoue@peacelaw.jp)）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

**なくそう！**

**ギャンブル被害**

会報第64号　2018/3/12

/

１／２５　/

ギャンブル依存症を生む

　　　　公認ギャンブルをなくす会

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（[inoue@peacelaw.jp](mailto:inoue@peacelaw.jp)）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

【目次】ギャンブルと犯罪／投稿：津市の競艇場の無料送迎バスと無料保育室、若者に蔓延する新たなるギャンブル依存症「ガチャ課金」とは／ギャンブルオンブズの眼②景気浮揚策としてのカジノ／ギャンブルが社会で許される条件／あなたは裁判員―ギャンブル狂いの息子の罪をどう考える―／コラム：ギャンブルの落語、カジノ語呂合わせ／いろはカルタ賭博考（4）／NEWSピックup

ギャンブルと犯罪

１．警察庁のギャンブルと犯罪統計

　警察庁は、2015年からギャンブルと犯罪について個別集計を始めた。それまでは犯罪動機の分類でパチンコやギャンブルを「遊興費」に含めていた。また、刑法185～187条違反の賭博犯罪と競馬法等の公営競技でのノミ行為の検挙数は以前から統計が一定公表されていた。ちなみに、2012年：賭博876件／ノミ行為48件、2013年：725件／21件、2014年：735件／25件である。しかし、これら検挙は犯罪実数からするとほんの一部に過ぎない。

　警察庁は毎年2月3日に、全国の摘発事件の犯罪統計を発表している。その中でギャンブル目的の犯罪「動機」の分類が公表されている。犯罪までする者は「パチンコ依存」と「ギャンブル依存」といえる。2015年：パチンコ資金目的995件／競馬などギャンブル資金目的707件／合計1702件、2016年：1329件／999件／2328件だった。2016年の罪種の内訳は、窃盗1719件、詐欺等320件、強盗等凶悪犯21件、暴行など粗暴犯16件だった。ちなみに刑法犯は全体で約32万件だった。

２．ギャンブルの犯罪は少なく見えて本当は多い。日本は世界一！？

　　ギャンブルに絡む犯罪はあまりにも多いが、ほとんどは報道されない。例えばパチンコ店で他人の玉、拾った玉を使えば窃盗罪になるが、それから暴力事件に発展すればともかく表沙汰にはならないだろう。警察官が知ったとしても被害届が出されなければ、店を出入り禁止にされるくらいで、窃盗事件検挙数にも数えられない。

　　公営競技場で誤って捨てられた当たり券を探す「地見屋」は昔からいるが、スリ係の刑事からも見逃され（見下され？）てきた。これも窃盗、遺失物横領、そして換金すれば詐欺などの罪になる。

警察がいくら検挙したいと思っても、ヤミ賭博やノミ行為などが隠れて横行していることは公知である。これらの検挙は実際の犯罪に関与した者の100分の1もないだろう。

ギャンブルに使う資金を親族から盗んだ場合のほとんどは告訴もされず公表されない。

今、警察が放っておけないと熱を入れるのは、暴力団による賭博開帳図利である。全国の検挙数の半ばが暴力団絡みであると統計されるのはこのためである。

報道されるギャンブルの犯罪は、たまたま検挙された者が①タレントやスポーツ選手などの有名人、②警察官、教員、公務員などの公職者、③暴力団員である場合にほぼ限られる。そして検挙事案も、①悪質犯罪事案、②巨額脱税、③ギャンブル場での騒動、④殺傷事件（喧嘩、保護責任者遺棄…）、⑤放火・強盗など拡大した社会被害事件、⑥ギャンブルに絡む汚職といったものである。ギャンブルでの自殺事件はほとんど捜査もされない。

このようにギャンブルにともなう犯罪は、警察の検挙数、検察庁の受理件数、裁判所の受理件数よりそれぞれ多い。警察の検挙数は実際の犯罪数より2ケタ以上少なく、その分検察庁や裁判所の受理件数は2ケタ少なくなってしまっている。例えば賭け麻雀はほとんど検挙されない。法律上は100点で1000円を賭ければ立派な犯罪である。警察が確認できれば黙過できないだろうが、現実は知らないそぶりである。パチンコの台調整や換金脱法については、遊技協会の申し合わせ（談合）に反する者だけが密告されて検挙される。これらは警察の下での「見逃された犯罪」になっている。

そもそも三店方式による換金パチンコ店は全国に１万店以上あるが、風適法違反の犯罪というだけでなく賭博開帳の犯罪行為である。その１万店に加えて、日本は1000万人ものパチンコ客がいてこれらも常習賭博とすれば、賭博犯罪が世界一多い国である。

３．印紙４.７億円の着服事件から考える。

　　2017年9月16日毎日紙によると、東京法務局職員が登記申請に貼付された収入印紙4億7293万円分を着服しギャンブルに費消していたとして、東京法務局が内1億1000万円の業務上横領で警視庁に告発したという。

　　2006年から10年間で計2778件の商業登記申請から消印されていない収入印紙を剥がして金券ショップに持ち込んで換金していた。2006年以前は書類の保管期限が過ぎており調査できなかったという。この事件の本人は2016年12月22日付で懲戒免職、当時の上司職員も監督責任により15人が文書での厳重注意となったという。

　　元職員本人の懲戒処分は当然であるが、①告発金額が少なすぎるし、全部で１件と計算される。②上司15人は厳重注意では軽すぎるし、損害の回復はあまりにも少ない。10年以上も同じ犯罪を続けさせた上司らに監督責任を問い、国に損害回復をさせるべきである。③元職員は換金した金を競馬などのギャンブルや借金返済に使ったというが、その使い先の調査も甘い。④2006年以前からの犯罪を続けさせたのは登記申請に使った収入印紙を消印しないという怠惰がかくも長年継続されていたからであり、その職務怠慢も背任といえ問われるべきだ。⑤さらに1年平均で5000万円もの収入印紙を換金がなされていたわけで、金券ショップ業者は古物商として適正な確認をしていない犯罪の疑いが高い。

　　もし、2006年以前に印紙の大量持込が的確にチェックされ、競馬でも本人のギャンブル資金の入手先が点検される仕組みがあれば、この4.7億円以上の犯罪は防げた可能性がある。

　　なお、告発理由は業務上横領になっているが、職員であろうと他人が貼って提出した収入印紙を剥がして着服したのであれば窃盗そのものであろう。自分が受付で預かったとしてもそれは法務局が受領したものだから職員個人が預かったとはいえない。元職員個人が預り保管中という認識は東京法務局としては認識不足ではないか。この辺りに元職員の犯罪としてのみ済ますところの組織の甘さがある。印紙は現金と同じであり、その現金管理がずさんであれば10年以上の局長、部長、課長と監督関係者は、わずか15人では済まないだろう。賭博は犯罪というだけでなく、賭博をするための犯罪を生んでいることを知るべきだ。

４．【参考】ギャンブルと犯罪について、本会報は幾度と取り上げてきました。

　　会報10号（2013.3.22）「被害者は近親者、友人、勤務先」「パチンコと殺人（パチムラより）」、会報11号（2013.4.10）「賭博犯罪隠語辞典」、会報32号（2015.2.4）「ギャンブルと犯罪類型」「2001～2013年刑事犯罪具体例（マネロン、脱税、汚職、多重債務、自殺など）」、会報37号（2016.10.4）「ギャンブルの犯罪7類型」、会報48号（2016.11.1）「ギャンブルのために生まれる犯罪」、会報49号（2016.12.26）「民営カジノの犯罪性」、会報51号（2017.2.14）「賭け麻雀をする市長」「場外券売場の賭博開帳」、会報57号（2017.8.17）「ギャンブルと脱税」、会報59号（2017.10.13）「暴力団とギャンブル」、会報60号（2017.11.15）「公営競技は賭博開帳か富くじか」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

投稿　　　津市の競艇場の無料送迎バスと無料保育室

　Ｍ・Ｋ（津市民）

津市の市議選挙において、共産党は市政について次のように批判しています。

市は、介護保険料や保育料を値上げしたり、職員数も2割減らすなど本来市民が受けられるはずのサービスをカットしているが、その一方で財政調整基金（市が自由に使える）として166億円をも貯め込んでおり、これは市民への不当な負担の押付けである。また、市民の「買い物や通院の足がない」というコミュニティバスを求める声に応えていないにも関わらず、競艇場への無料バスを年1億2000万円もの税金を使って走らせている。そして津市の待機児童は200人もいるのに保育園対策が一向に進まない中、競艇場には無料保育室を設置している。このようなギャンブルに迎合する市政を批判し、福祉サービスの充実をかかげているのです。

これに対し行政は、無料バスや保育室サービスは競艇場への客寄せのためにするものであり、競艇事業での財政収益をあげることを目的としたものだとし、その競艇収益は市の財政に貢献し公共支出目的として使われており市民に還元されているというのです。

しかし割り切れないのは、無料バスまで出すというのは客の便のためというより市が儲けるために客を増やすためにするものであり、市がそこまでしてギャンブル事業をする意義があるのか、また保育室が必要になるような乳幼児を連れた客まで誘致する必要はあるのか、という疑問です。パチンコ店内にも保育室をつくればよいというのでしょうか。

この辺り、市、市長、議会の倫理観と行財政の基本を問う必要を感じます。

公益ギャンブルは違法ギャンブルを抑制するためにあるともいわれますが、無料バスや無料保育室まで導入するような公共性、公益性は全くありません。ギャンブル場に幼い子を連れてきて自らはギャンブルするというのは、ギャンブル依存客ではないでしょうか。

投稿　若者に蔓延する、新たなるギャンブル依存症

**「ガチャ課金」 とは** 光城　民雄

「課金(※１)600万BOX公開～」、「課金総額180万〜」、「課金額1,450,000円～」、「総額120万円課金～」等など、これらは大手動画投稿サイトに連日並ぶ、人気タイトルの一覧です。投稿者はその名の通り、ソシャゲ(※２)に数十万から数百万の金額を「課金」し、その状況を実況動画として流すことで、再生数を稼いでいます。

彼らの様に数十万単位のお金をソシャゲにつぎ込む人達は、「廃課金(※３)」と呼ばれています。世間でも、今季オリンピックの銀メダリストである宇野昌磨さんを始め、マルチタレントの星野源さんや大御所俳優の笹野高史さんなどの多くの著名人が、数十万単位の「課金」をおこなう「廃課金」であると公言しています。

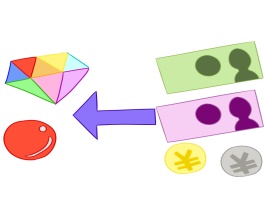
そもそもこういったソシャゲは無料かつ簡単に始めることができます。手元のスマフォにインストールするだけで、電車での通勤時間やちょっとした待ち時間の間、いつでもどこでも遊べるという、大変お手軽なものとなっているのです。

しかしゲーム内で、より強いキャラクターやより性能の良いアイテム、いわゆる「レア(※４)」が欲しいとなった場合は、「課金」することでそれらを当てないといけません。一定の金額を払って「買う」のではないのです。一定金額で一回だけ回せる抽選(※５)をして、「当てる」必要があるのです。

すなわちソシャゲとは若者の間で流行っている、まごうことなき賭博です。ギャンブルですので、欲しいキャラ等が絶対に当たる保証はどこにもありません。何十万、何百万とつぎこんだ所で、当たらないことだって当然あるのです。

ガチャの排出率ですが、もちろんソシャゲ毎に細かく異なっています。例えば某ソシャゲの場合は、「100連ガチャ(※６)」で最高レアのキャラクターが出る確率は、約63％となっています。必要な課金額は、約19600円ですので、「２万円足らずで５分の３の確率」ということになります。しかしこれは最高レアの中のどれかが当たる確率ですので、狙ったキャラを当てられるわけでは決してありません。このソシャゲの場合だと最高レアのキャラは50体以上いますので、狙ったキャラの排出率はさらに絶望的な確率となるのです。

そうした経緯から、最初に書いたように、お目当てのキャラを引くために何十万もの私財をみつぐ「廃課金」プレイヤーがいます。動画投稿サイトに限らず若者向けSNSでは、注目を集めたいがための「ガチャ課金」の結果報告が後を絶ちません。彼らにとっては、最悪当たらなくても構わないのです。見ず知らずの他人へ向けて、いかに「課金」したかを自慢できればいいのですから。

ネットの普及によって、「課金」は競い合うように行われています。これが若者を中心に加速度的に蔓延している、新たなギャンブル依存症の実態です。

※１　ネットスラングでは、能動的な意味で使われます。

すなわち「課金する」で、「ゲームへお金を払う」という意味。

※２　ソーシャルゲームの略。ネットを通じておこなうスマフォ等のゲームのこと。

※３　ネットスラングで、廃人のように「課金」するという意味。

※４　レアリティの略で、希少価値のあるキャラクターやアイテムのこと。

※５　この抽選のことを、「ガチャ」といいます。つまり「ガチャ課金」とは、

ガチャのために「課金」すること、またはその「課金額」のこと。

※６　「ガチャ」を100回すること。「○○連」で○○回数「ガチャ」を回すという意味。

ギャンブルオンブズの眼②

景気浮揚策としてのカジノ

　景気という言葉は、①様子、けはい、②景観、景色、③人気、評判、④元気さ　などの意味の他、⑤売買取引など経済活動の活発さ、好景気を示すために使われる。景気指標、景気循環、景気動向など産業、商業、経済の世界で使われることが多い。要するに、⑤の経済取引が活発であれば良いという関心の下に使われる。しかも景気拡大を無条件に肯定するものが多い。

　「取引が多ければ良い」という神話は、その中に取引で得られる当事者の利益が含意されている。人は自らに富や豊かさをもたらすものを求め、景気浮揚を求める。だから景気の拡大、浮揚策に反対せず歓迎し賛同する人が多い。

産業生活活動が人の労働と効率的なシステムによって盛大となり、環境や他の人々に害（特に不可逆的な環境被害）を与えないものならば、好景気は歓迎される。しかし、取引の中には何ら富を増やさず、取引手数料だけ失われるものがある。それが投機と賭けである。投機とは将来相場を予想した賭け・ギャンブルそのものである。

カジノを設けると賭けというゲーム・取引は無限的に増大する。モノやサービスの現物取引なら供給する側にも需要消費する側にも限界があるが、賭場なら限界はない。現物取引を超えて借金や信用取引も増える。ＡＴＭ、ジャンケット、借金による賭けに加え、委託証拠金取引、デリバティブ取引の限度さえ逸脱する。

ギャンブルはゼロサムの取引、厳密にいうと確実に発生する取引手数料（寺銭）を奪われた分、取引当事者双方の利益と損失の和がゼロより低くマイナスになるような取引である。その拡大は、実質景気の拡大とは無縁である。賭場を開帳して常習賭博をさせたり、富くじを発売する者だけが儲けることが、国政や地方全体の経済の景気浮揚策として公費投入までしてなされることは、背任の経済政策である。

経済が不振な時、国家は公共投資で仕事をつくって需要と雇用を生むのが良いとされるが、地面を掘ってまた埋め戻すというような事業は、借金を未来に増やすだけである。かつてニューディール政策でのダム建設や道路・鉄道インフラ投資は、そこでの電力需要や乗客の需要が生まれ高度成長することが前提条件だった。そして国家の農・工業の生産性が上がることが条件だったのである。

しかし、不動産の投機はその消費を支える生産の向上と富の拡大という条件がなくなり、特にその買い入れが借金というシステムによるものであると高騰バブルは破綻する。それが1980年代に日本で生じ、2000年代にアメリカで生じたのだった。こんな投機を全く「遊びの世界」という理由で自由にさせる公共政策はない。

今、大阪夢洲でのＩＲカジノリゾートやその公共投資導入策としての国際博誘致活動は、誤った景気拡大策である。彼らはそこでのカモ（客）は外国人観光客というのだが、こんな観光産業政策は外国人のための売春宿や違法薬物使用区域をつくるというのと同系列であろう。外国人なら収奪してよいという国際的倫理はない。依存症その他病気になっても、自国に帰って直せという論理も通用しない。実際には日本のｶｼﾞﾉは日本在住の客を収奪することになる。

ギャンブルが社会で許される条件

１．はじめに

　　人にとって生殺与奪を含む生存競争が不可避とすれば、人が他の生命や財産（富）をあらゆる手段を取って奪うことを非難しても始まらない。しかし、家族、部族、小社会、国家で秩序を保ち、人の生き方に倫理が求められるとすれば、殺人、盗み、詐欺は禁じられる。現在世界中の刑法が定めるように法律でも禁じられる。

　　また、人が遊びやゲームを発明しても、それを利用した略奪は制限されるようになる。人が社会で安定的に暮らすためには、ゲームを利用したギャンブルでの略奪は、当事者任せにはできなくなる。それは、為政者（権力）にとっても必要となった。近現代政府も同じである。

　　そして、倫理・宗教の世界でも、生命、財産、生産活動を害するギャンブルは抑制されるべきという思想が生まれ、教育されてきた。

　　公認ギャンブルでも社会的に非難されるのは、事業者のその消費者（客）への略奪性や詐欺性、客観的に生まれる様々な弊害（社会悪）が生まれているからである。人の射幸心は、食欲や性欲のような生命存続の根源につながるものではない。人は生まれながらに射幸心を持つという意見もあるが、実は射幸心は社会的生活をする下で教育されて持つようになる。

　　このギャンブルを、私たちの社会と個々人を不当に傷付けることのないものとするには、何が必要だろうか。

２．略奪・詐取の禁止原則

ギャンブルは一見、当事者間のゲームであり、自由な約束による賭け事のように思われている。しかし、現存するギャンブルシステムは賭博の当事者間、特に主催者（開業者）と客の間に互換性のないものがほとんどである。公営ギャンブルも現存するカジノも脱法パチンコもこの点で共通する。公営ギャンブルは主催者を政府や自治体に限定し、その収益の利用を公益目的と限定することで適法といい、パチンコやゲームは射幸性を厳しく限定した遊戯として適法化され、カジノは特定の歴史条件と場所、特定人への限定ルールの下で容認されたといえる。

ところが、現状の公認ギャンブルは様々な消費者被害や社会への弊害をもたらしている。その本質は互換性のない略奪的ギャンブリングである。収益事業という公営ギャンブルは、今や設営当初の目的でもある収益性を目的とし、今はその限度を超え、消費者（客）を射幸心の虜にしてギャンブル依存者を生産し、社会に弊害を与えているのである。

　そして、パチンコは私営の遊技場での脱法ギャンブルとして運営され、公営ギャンブルの５倍もの収入をあげている。

　そもそも遊技のゲームでは最小限のコストを超えた収入を得てはならない。特にパチンコ・スロットは、健全なゲームのレベルを超えた私営の略奪的ギャンブル事業である。

また、自由としてのギャンブルを許すとしても対等な当事者間の詐欺性のない健全なゲームルールでのみ許される。

現在のパチンコやスロットは、そのゲームが事業者設定によってコントロールされ、事業者が高収益を得られるようになっている。しかも、システムは消費者（客）には知らされていない。いわば射幸心を支配するパチンコ機・パチスロ機によって事業者に客からの収奪を保障するシステムとなっており、詐欺性を持つのである。

　また、一見公正にみえる公営ギャンブルも、その真実を消費者に確認させていない。依存障害の危険性を教育・広報するでもなく、夢や甘い期待を売り射幸心に溺れる者、のめり込む人を対象として勧誘しているのである。かつて「スポーツ」であると主張された公営競技も主流化しつつあるインターネット投票などでスポーツ性さえなくし、富くじに等しい。スポーツ振興くじのtotoやBIGももはやサッカースポーツとは無縁である。

３．説明責任と真実告知義務、ギャンブル抑制原則

　　これらの詐欺性をなくすためには、勝率の低さなど真実の告知義務を課し、誤解を招く広告を禁止し、正しい説明責任が求められる。この説明と告知義務は、個別の客への義務と社会への義務が含まれる。ギャンブル客への健康侵害をもたらさないよう、未成年者を含む国民への正しい社会教育や不適格者の入場、ゲーム参加を禁じ、また健全度を超えた多額のゲーム参加、ギャンブル参加を禁止すべきである。

４．社会へのギャンブル弊害の最大防止と最小化

　　ギャンブルは客当事者に害を及ぼすだけでなく、社会に対し様々な害を及ぼす。刑法はその個人の一時的で安全な娯楽の範囲に限り処罰しないが、その余は一律に禁止している。常習的な賭博は許されず、賭博場の開帳や提供、富くじは厳禁されている。1946年以後の戦災復興を目的として国家管理下の公営競技における賭博や宝くじはその例外とされたが、その許容条件は、国家政府がギャンブルの弊害を最大限防止し、被害を最小限にするという担保の下に許されたものである。

　　この点、パチンコ・スロットは、ゲーム賞品を換金するシステムでの完全な私営賭博と化しているのに、警察や公安当局がこれを見逃し、自らの天下り、再就職先にするという二重の「犯罪的」状況である。

　　ギャンブルはその資金において犯罪、脱税、マネーローンダリングを生む。また、賭博の場においても賭博によって集められた金品についても脱税、マネーローンダリングが常態化している。ギャンブルについては客の投入金から配当金（勝金）まで、個人ごとの完全捕捉と課税がなされなければならない。

５．まとめ

　　現在のギャンブルは企図されているカジノを含め、社会で許される条件はない。

あなたは裁判員　―ギャンブル狂いの息子の罪をどう考える―

　ある町に一人暮らしのおばあさんがいました。一人息子は都会に行ってしまい淋しく暮らしていました。おばあさんは都会に行った息子からよくお金をせびられて困っており、貯めたお金は納屋の地下に隠していました。

その息子は友人と野球賭博の博打をして200万円の大負けをしました。しかし、手持ちは100万円しかなく、その博打の相手に100万円の借金ということになりました。息子はおばあさんに「会社のお金を200万円使いこんでしまった。今月中に100万円入れないと警察に捕まる」と嘘をついて「金を何とかしてほしい」と頼みました。

驚いたおばあさんは「30万円はあるがそんな大金はない」と言いました。すると息子は「まずはその金を返せば何とかなる。残りは月々の働いた金で返せる」と言って、30万円を騙し借りました。しかし、その息子は30万円では足りないので、その30万円を元手に競輪で勝って100万円以上にしてやろうとしました。しかし負けてしまい、その金もなくなったのです。

そのため今度は近所に住む親しいおじいさんのところに行き、「銀行に返すはずの50万円を電車でスラれてしまった」と嘘をつき、「お金を貸してほしい」と頼みました。おじいさんは「貸せるようなお金はない」と言いました。すると息子は「このままでは山に行って首を吊るしかない」と嘘泣きをしました。困ったおじいさんは何かお金になるものはないかと考えてみたところ、そういえばおじいさんのお父さんが大切にしていた茶碗があったことを思い出しました。使っていない茶碗ですが、ご先祖から値打ちがあると伝えられていたものなので「とにかくこれでお金を作って、銀行にお金を返しなさい。残った金は持ってくるように」と言いました。

息子はさっそく町の質屋に行き、自分のものといって茶碗を見せると「名品」といわれ、なんと80万円で売ってしまいました。しかし、息子はおばあさんに金を返すこともなく、そしておじいさんには「1万円にしかならなかった」と嘘を言い、おじいさんから1万円を借りたことにしました。

息子はその足で80万円を持って闇バカラに行きました。そこでも負けて、80万円をすべて失いました。その闇バカラの店長は、以前から息子のことを札付きの道楽息子であると知っており、この80万円は人を騙して借りた金だということもわかっていました。

　ところが、この闇バカラはイカサマでした。息子は負けたことで店長と喧嘩し、頭を殴って1ヶ月の怪我をさせました。そのため大騒動となり警察が調べました。

　警察はまず、息子を闇バカラ店での暴行・傷害で逮捕し、起訴しました。続いて警察は息子の博打について調べをし、野球賭博を賭博罪で立件しました。この200万円の野球賭博では、友人や関係者も次々と逮捕されました。

おばあさんに嘘をついて100万円を借りようとしたり実際に30万円を借りたという行為は詐欺になるとわかりましたが、おばあさんが告訴までしないというので親族間の犯罪として立件しませんでした。

しかし、隣のおじいさんについては、おじいさんからの告訴はありませんでしたが、骨董品の茶碗を売った80万円を嘘をついて懐に入れたことは盗んだも同様で、80万円の詐欺になるとして立件しました。

そして、闇バカラは賭博ですから、まず店長と息子は賭博で捜査されました。闇バカラ店はそもそもイカサマを働いていましたから、息子にとっては詐欺ですが、まず店長を賭博開帳として立件しました。息子も賭博罪ですが詐欺罪の被害者でもあり、この立件は保留されました。闇バカラ店の詐欺も処分保留となりました。

こうして被告人となった息子は、裁判では起訴された罪を認めました。弁護人は次のように弁護しました。

「たしかに賭博に狂って博打をしたり詐欺となる嘘をついて金を作ることは悪い。しかし、野球賭博は無効な取引で、その金が返されるとおばあさんやおじいさんにも弁償できる。おばあさんの30万円は公営競技という自治体主催の賭博収益になっている。公営競技は投入金の出処を問わず大金収奪するシステムだ。ギャンブル依存の客まで賭け金規制をしようとしない政府に非がある。闇バカラは実質詐欺事件だから詐欺罪で立件して、店には真の被害者の損害を賠償させるべきだ。野球賭博や闇バカラの常習犯の取締りができていなかった捜査当局も責任がある。

ところで、息子は実は5年前から自分の金をパチンコや競馬に費やし500万円以上負けている。働いて得た金を使い、ついに嘘をついてまでギャンブルを重ねた。これはギャンブル依存症だ。このギャンブル依存に対し、政府は何ら対策を取っていないし、自治体はいわば病人を増やして収益をあげるという反社会的事業をしているにもかかわらず何の責任も取っていない。ギャンブル依存はこれまで自己責任問題として放置されてきたが、今では無限定なギャンブル開催側に第一の責任があるとされる。弁護人としては、本人はギャンブル依存症による心神耗弱を理由として罪の軽減を求める。おばあさんやおじいさんも、反省している息子に処罰を望まず寛大にしてほしいと言っている。」

判決で裁判官は、ギャンブル依存症に対して政府の無施策は問題がある。しかし、本人がギャンブルに依存したことで責任を回避することはできない。但し、今回初めての事件であり懲役　？　年に処するとしました。

そこであなたに質問します。賭博罪は50万円以下、常習賭博は3年以下の懲役、詐欺は10年以下の懲役との刑罰が定められています。

（１）あなたならどれくらいの罪にしますか？

（２）執行猶予はどうしますか？　それによって被告人の更生にどう影響しますか？

（３）裁判で直接裁かれておらず、社会的にも非難されていない隠れた問題があります。それは何でしょう？　弁護人の弁護をヒントに考えてください。

（４）現代社会にはたくさんの依存・障害があります。他人事ではありません。どのようなものがあるでしょう？

コラム　　　　　　　　　ギャンブルの落語

　江戸時代以来の落語には新作も含めて賭博（ギャンブル）がよく登場する。今回はその中から二つを紹介する。

「看板のピン」　（三遊亭円生、柳屋小さんなど）

　　若者が“ちょぼいち”というサイコロ一つでやる賭博をしているところに、老親分が来て「博打はするな」と注意する。しかし逆に一度胴をとってくれと頼まれ「１回だけ」と壺をとる。年のせいかサイコロが壺の外にこぼれ出て一の目になっている。それに気づいていないのか親分は「さあ張った。勝負は壺の中だ」と。みんなが一に張ると、親分「じゃ看板の一はこっち」と外のサイコロをしまい、「俺のにらんだところじゃ中の目は五だ」と勝負。壺の中にはちゃんとサイコロが一つ入っていて五の目が出た。「それ見ろ」「ああ本当だ」「このまま銭もって帰ってもいいんだが」と言いつつ銭を返し、小遣いまでやって帰っていった。

　　これで改心する者もいたが、いい手だと思う者もいて他の賭場に行って真似をした。胴をとり、看板の一を出してみんなを張らせ、「看板はこっちにしまって」「中は五だと思う、勝負！」としたのだが…「中もピンだ」。

「ギャンブル社長」　（新作　三遊亭円右など）

　　斉藤さんからの紹介で同氏の甥と就職面接した社長。勝負事が好きというので社長がどんな賭博かと尋ねると、競馬競輪はやらず、屋上の角に腰を下ろして靴の紐を結べるかを賭けるという。そして甥は「人の噂によると社長のお腹には入れ墨があるそうだが本当ですか」と聞いた。社長はしていないと答えたが、甥は疑って「千円を賭けるから見せてください」という。社長はお腹を見せた。今後も賭けが癖になっては甥のためにならないからと、社長は甥から千円をきちんと受け取った。

　　その後、斉藤さんから電話があり、経過を説明し「これで彼も懲りたでしょう」というと、斉藤さんは「えらいことをしましたな、実は甥が初対面の社長さんのおへそを見るというので、私は社長さんのおへそなど見られるものかと、見られない方に１万円賭けたんです」。

カジノ語呂合わせ

現代の総合的賭博場はカジノです。イタリア語の「カッシーノ（別荘）」に由来し、貴族や金持ちが賭け遊びをするところでした。それが他に産業のない観光都市で、一般国家では許されない賭博ができる特別地区として観光客（そのほとんどは外からくる観光遊興客）向けのギャンブルをさせることで、その地区の収入源とするところとなったものです。

「カジノ」を漢字で表すとしたらどんな漢字がふさわしいでしょう。「火事野」「火事脳」などが思い浮かびます。火事野とは鉄火場から転じて賭博場を意味するところでしょう。火事脳とは博奕で脳にドーパミンが放出し冷静ではない状態、またギャンブル依存の借金等で悩んでいる状態というところでしょうか。

また、カジノの「カ」は火だけでなく過、禍、稼、苛、夥、寡、仮など、「ジ」は事だけでなく時、持、除、治など、「シ」も含めれば試、資、嗜、至、死、止などの字もあります。だとすれば「過嗜脳」とか「禍時悩」「寡資乃」「仮死悩」の世界がカジノだと言えるでしょう。

**いろはカルタ賭博考（４）**

**そ**　「総領の甚六」（江戸）、「袖振り合うも他生の縁」（上方）

　大事に育てられた長男長女はお人好しで愚鈍とも。ギャンブルにはまり易い。またちょっとした人の縁も深い宿縁という。他生の縁とはこの世以外、前世からの縁をいう。人はよく因縁を感じて深入りする。しかし、ギャンブルは結果的に他者が敵になる。同じ競輪場にいる他人は似た者同士ではあろうが、全員が共に喜ぶことはできない。共に収奪されるも「喜ぶ」異常な縁の集団である。

　＜損をして恥をかく＞　＜損は口にせず当たりを言う＞

**つ**　「月夜に釜を抜く」（江戸）、「爪に火をともす」（中京）

　明るい月夜に釜を盗まれる、はだはだ油断。「爪に…」はひどくケチなこと、又は苦労した倹約。「月とすっぽん」は丸いが全く比較できないこと。しかし金に目がくらむと月給をまるごと賭博でスポンと失うことがある。人の経験や教訓を学ばず、失敗してから「爪の垢を煎じて飲め」といわれる。「罪を憎んで人を憎まず」というが、身内を殺された人にこう言っても理解されまい。しかしギャンブル依存の場合は何が誰が「彼女をこうさせたのか？」と言いたくなる。

　＜罪犯しても　賭ける金＞　＜つける薬のないギャンブル依存＞

**ね**　「念には念を入れ」（江戸）、「猫に小判」（上方）

　周到な準備で失敗をなくせという。だがそれはギャンブルの主催者・胴元側の計画。「猫に小判」は「猫に鰹節」「猫にまたたび」と対照的な句。猫にかかわる諺は多い。猫より多いのが「猫ババ」をきめる人間。ギャンブルでの所得税の脱税など、悪いことをしても知らんふりだ。

　＜寝た射幸心を起こせ　賞金アップ＞　＜年々　世はギャンブル社会＞

**な**　「泣き面に蜂」（江戸）、「す時の閻魔顔」（上方）

　悪いことの上に悪いことが重なる、こけた上に踏まれる、弱り目に祟り目とは、ギャンブルで負け続けることか。済すとは返済すること。借りるときの恵比須顔が前句にある。借りるときは愛想がよく返済時はしかめっ面ということ。貸し借りだけでなく賭博では勝ち負けの顔が全く異なる。泣き面や笑い顔が交錯する。

　＜泣く子とナンバーズには勝てぬ＞　＜ない金で賭けるな＞　＜なくても借金賭やめず＞

**ら**　「楽あれば苦あり」（江戸）、「来年のことを言えば鬼が笑う」（上方）

　楽と苦は同時か時間差で訪れる。いずれにせよ未来はわからない。なのに知ったかぶりで言えば怖い鬼も笑うらしい。ところが、先物相場取引や証拠金取引（ＦＸ）は来年のことで賭けるギャンブル、地獄の沙汰になるかも。

　＜ラッキーはアンラッキーの始まり＞　＜楽天の馬券売り＞

ギャンブルＮＥＷＳピックｕｐ　（2017.12.12～2018.2.21）

2017.12.12　産経　　　万博誘致へ、鍵握るアフリカ・中南米特命チーム編成　関経連会長「経済人が馬力をかけてやる必要がある」

2018.1.6　　毎日　　　ハウステンボス｢海中カジノ｣構想　長崎・大村湾に　世界初　数百億円投資

　　1.12　　＜当会　会報第６２号発行＞

　　1.15　　東京　　　どうなる「カジノ」導入　成長戦略の目玉に　「依存症」対策が急務

　　　　　　ＮＨＫ　　ＩＲ誘致　和歌山でシンポジウム

　　1.18　　赤旗　　　カジノは万博趣旨にあわず　大阪ネット　１７０カ国大使館に文書

　　　　　　ﾀｳﾝﾆｭｰｽ　　改めてカジノ否定　横浜港運協会

　　1.19　　赤旗　　「不幸で成り立つビジネスだ」カジノ実施法案阻止へ学習会　共産党

　　1.22　　毎日　　　パリ万博誘致断念へ　仏紙報道、首相「財政再建妨げ」

　　1.26　　佐世保　「カジノ誘致問題を考える市民の会」設立総会開催

　　1.28　　毎日　　　カジノ実施法案／公明、慎重論崩さず　自民と維新をけん制

　　1.30　　ＮＨＫ　　ギャンブル依存　高校から予防へ（大阪府など）

　　2.6　　ＮＨＫ　　 米カジノ運営会社が計画を説明（大阪）

　　2.9　　日弁連　　 カジノ解禁推進法に関する意見交換会（第８回）開催

　　　　　 ＮＨＫ　　 ギャンブル依存症　府と府警連携／ギャンブル依存症対策で新会議へ（大阪）

　　2.13　　＜当会　会報第６３号発行＞

　　2.15　　時事　　　カジノ入場、週３回まで＝実施法案で調整―政府・自民

　　　　　　ＮＨＫ　　ＩＲ法案成立へ　自民・維新連携

　　　　　　毎日　　　＜ギャンブル＞「依存症の恐ろしさ知って」回復めざす女性

　　　　　　　　　　　ギャンブル依存相談拠点　民間開設　カジノ誘致の大阪に

　　2.18　　赤旗　　　カジノ　政府・推進派が執着「実施法」案提出狙う　野党阻止へ共同

　　　　　　BIZｼﾞｬｰﾅﾙ　　パチンコホール、「出玉規制」で倒産激増？ヘビーユーザー離れの危機、大手は異業種参入も

　　　　　　毎日　　「夢洲ＩＲ　投資１兆円」ラスベガス・サンズ専務が「可能性」

　　2.19　　時事　　　カジノ税、収入の３割＝3000億円超に累進課税―国と地方で折半・政府案

　　　　　　読売　　　カジノ開業調査費、業者負担に…反社会勢力排除

　　2.20　　産経　　　海外ＩＲ事業者、日本政府との溝鮮明…ｶｼﾞﾉ面積規制やｲﾝﾌﾗ投資要請に反発

　　　　　　北海道　（社説）カジノ法案　あらためて徹底議論を

　　2.21　　毎日　　　カジノ入場料　数千円　依存症対策　日本人・在住外国人

　　　　　　ＮＨＫ　　ギャンブル依存症防止へ　政府案“カジノ入場料2000円”

当会は財政上は専らカンパで成り立っています。

会費・カンパを下記口座までお願いします。

記

りそな銀行　北浜支店　普通０１１５７１９

口座名義：ギャンブル被害をなくす会